

東嶺山だより

令和4年9月号 通刊176号

355-0044 東松山市正代778-3 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email: semyojuji@yahoo.co.jp HP: tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

お彼岸は「限りある命を、どう生きてらよいかを考える」1週間にしましょう

お彼岸と聞くと、すぐに思い浮かべるのはお墓参りでしょう。そして、なぜお彼岸の期間を仏教週間と呼ぶのでしょうか。

仏教の修養は、毎日欠かすことの出来ない大事なことです。が、雑事に追われているとそうはいきません。そこで、せめて春と秋の年2回、春分の日と秋分の日を挟んだ前後七日間にこの大事な修養を集中的に実践し、その意義を忘れないように定められてのがお彼岸の一週間なのです。

お彼岸は、仏教と関係の深いインドや中国にもない日本独自の行事ですが、春と秋の二回あることと仏教の教えとどんな関係があるのでしょうか。

春分の日と秋分の日には昼夜が等分であり、太陽を中心として考えると1年に2回ある最もバランスの取れた日といえます。これは、仏教の教えである「中道の精神」に相通ずるものがあります。「暑くもなし寒くもなし」とはすなわち、どちらにも偏らないことです。お釈迦様は、「我中道を行く」と決意して苦行を放棄しています。

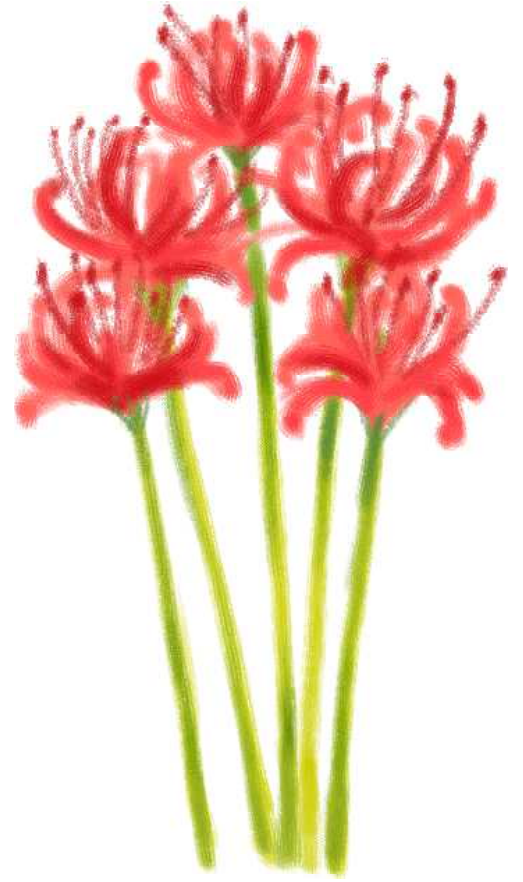
また、春分の日と秋分の日には太陽が真東から昇り真西に沈む日ですので、昔から西方浄土に近くなる日とされてきました。その頃に修養に励むことにより、死後により早く浄土に到達することができると考えられてきたのです。

そして、もちろんお墓参りをして、ご先祖様に感謝の心をお伝えし、これからの生活を送る上での新たな誓願を立ててご加護を願う機会としての大事な機会だということには変わりありません。

●「人に生まるるは難く、いま生命あるは有り難し」

この世に生を受けた以上、自らに問いかけ、何を目的に、何を大切にして生きていけばいいかを考えることも大事なことです。

世の中には、「頼みもしないのに親が勝手に産んだ」などと言う人もいますが、すでにこの世に生を受けている以上は、このことにきちんと対峙した上で、自身の人生を納得のいくものにしていくことが大事です。人としてこの世に生を受けたことを肯定せずして、望ましい死の迎え方を考えることはできません。まずは、素直に、「この世に人として生を受けたことを感謝できる自分で」ありたいと思います。



お灸のせ

■彼岸会 ～皆様のご先祖様の御霊を偲び、成仏を祈ります～

- 日時 9月23日（金） 午前10時
- 会場 世明寿寺 本堂
- 塔婆受付 9月1日から 5000円

*塔婆を建立し、さらに多くの
の功德を積みましょう

○四摂法(ししょうぼう)の実践 ～お彼岸の誓願に～

仏教とは仏の教えであり、同時に仏を目指す教えでもあります。

仏を目指す生き方として、曹洞宗の開祖の道元禅師は4つの行いを示されました。

- 布施(ふせ)物でも心でも、惜しまずに与えよう
- 愛語(あいご)思いやりの言葉をかけてあげよう
- 利行(りぎょう)人のためにできることをしよう
- 同時(どうじ)みんなで助け合い、仲良くしていこう



■埼玉県仏教徒大会（再掲）

大会テーマ；天下泰平 萬民豊楽 ～平和を願い 出会いを大切に～

- 日時 10月3日（月） 13：30～16：00
- 会場 埼玉会館大ホール さいたま市浦和区高砂3-1-4
- 内容 第一部 記念講演「霊気満山 高尾山」と公演「声明とインド舞踊」
- 備考 入場無料（要入場券） 先着600名 *希望者は住職へ連絡願います

■お願い 護持会費やお盆志納金が未納の方は、納入願います

■今月のことば

「秋来草有声（あききたりてくさにこえあり）」

秋になると、どこからともなく、草陰から色々な声が聞こえてきます。耳を澄ませ、心を澄ませて、秋の気配を感じましょう。

まだ、夏を引きずっている9月でも、あたりに秋の気配が漂ってきます。それをいち早くキャッチするのは聴覚かも知れません。十分に涼しさを感じられる宵は、テレビなどを消して、耳に神経を集中させましょう。聞こえてくる虫の音は、耳に、心にあますところなく初秋を届けてくれるでしょう。

■9月の予定

- 寺子屋 コロナ感染拡大防止の為、当分の間中止しています
- 秋彼岸 20～26日
- 坐禅会・写経会 11, 25日 坐禅：7時 写経：8時 感染防止に留意しています